

おでかけパス券を存続させる会
共同代表 丸山光代
きょううされん熊本支部
障害者・児の生活を豊かにする会 地下憲征

さくらカード①・おでかけICカードの改善のお願い、

日頃より、障害者福祉の充実へむけてご尽力いただき誠にありがとうございます。私たちは、障害者にとって社会参加の大きな手助けとなつてゐる「おでかけパス券」の存続を求めてきました。残念ながら、昨年3月をもつて廃止されてしまい、本当に残念なことだと思っております。「おでかけパス券」の復活を願つているところではございますが、現実的には困難なことでしょうし、ICカードによる正確な利用量の把握ができる点などのメリットを考慮しますと、現在のおでかけICカードの改善（本人負担の無料化等）を求めていくことが一番の解決策ではないかと思ひ至りました。

おでかけICに移行して約一年、利用者の困りごとはより一層明らかになつてきました。カードの提示にもたついて運転手から叱責されたり、残高不足でペニックになつたり、チャージの際にうまく伝えられずに運転手の協力が得られなかつたりと、乗車の際は不安がいっぱいです。そして、1割負担が完全実施されたことにより、計算のできる人は外出を控えざるを得なくなりました。その一方で、自分がどれだけ使用しているかわからぬ人は、利用を控えることができません。家族や職員にチャージしてももらつているので、自分のお金が減つていいという認識が全くありません。また、買い物できるカードだと知った人は、使つてしまい、おでかけICの残高不足を訴えています。さくらカード①・おでかけICが、本来の目的である、障害者の社会参加を促進する制度へと改善されることを願つて、今議会に同封の陳情書を提出いたしました。熊本市5割・交通事業者4割・本人1割という負担割合の矛盾解決のためにも、制度創設当初の無料パス券に戻していただくことが、一番の解決策ではないかと考えます。

ご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

事務局 熊本中央区新大江1-12-15
きょううされん熊本支部内
℡096-245-6220 担当；藤本

さくらカード①(障がい者用)の改善を求める陳情

陳情主旨

1. さくらカード①(障がい者用)の1割負担を中止し創設当初の無料に戻してください。
2. 熊本市5割・交通事業者4割・利用者本人1割の考え方について見直しを行い、交通事業者に対して、障害者手帳提示の際の扱いと同じ5割を求める方向で申し入れを行つてください。
3. おでかけICカードになつてから、車内での障害者への合理的配慮が必要な場面が増加していますが、残念ながら、それに見合うだけの対応がなされません。車内で障害者が困ることがないよう、肩身の狭い思いをしないで済むように、配慮と支援をお願いします。ICカード移行前の説明会で約束されていたように、熊本市として責任を持つて交通事業者に要請を行つてください。

陳情理由

『おでかけバス券』が廃止されて1年が経とうとしています。障害者が安心して公共交通機関を利用でき、社会参加できる貴重な支援制度であった『おでかけバス券』が使えなくなつたことで、多くの障害者が困っています。

さくらカードは平成8年10月に、障害者・高齢者・被爆者の無料バス券として始まりました。ところが、平成16年に一部負担が導入され、障害者1割という負担が設けられました。その際、導入されたのが、障害者の場合、熊本市5割・交通事業者4割・利用者本人1割とする考え方です。昨年春におでかけバス券が廃止される際も、この決まりに従つて、人々の1割に戻すだけとの説明がなされました。

年間2,000円の定額負担である『おでかけバス券』が利用できていた間は、この決まりを一定受け入れてきましたが、廃止されてしまつた現在、私たちは、この(熊本市と交通事業者の間で取り交わされた)決まりそのものに目を向けざるを得ません。通常の障害者負担分である5割については、熊本市が負担しているにもかかわらず、何故、障害者に1割負担が求められるのでしょうか。熊本市からの納得のいく説明が得られていません。障害者の1割負担が中止されれば、おでかけICカードに関する多くの問題が解決されることになります。『おでかけバス券』が廃止されたため、事業所からの送迎をお願いせざるを得ない人がいます。送迎に頼ることは、彼らの自立につながりません。出来ることも出来なくなつていきます。一人で移動できることは、自立の第一歩です。その第一歩を支援する熊本市の移動支援制度が、本来の目的にかなつたものになるように、さくらカード①(障がい者用)の改善を求めます。

平成29年3月3日

陳情団体 おでかけバス券を存続させる会

共同代表 きょううさん熊本支部

丸山光代
障害者・児の生活を豊かにする会 新城重之

住 所 熊本市中央区新大江1丁目12-15 3F

熊本市議會議長 澤田 昌作 様

バス・電車等のパス券制度を実施している他都市との比較

	都市名	名称	対象	本人負担	本人負担分のゆくえ	助成	手続き	行政から交通事業者への支払	カードの種類
1	熊本市	熊本市優待証 (さくらカード①) +おでかけIC カード	身体1~3 療育A1・A2・B1 精神1~3	1割	交通事業者へ	5割ー1割 で、実質4割 の助成とい うことになる。	さくらカードに手数 料300円(写真あ り) おでかけIC カードに500円(デ ポジット相当分)	5割に加えて、利用者の 1割負担分も交通事業 者に支払われている。 合計6割が交通事業者 へ。	ICカード
2	札幌市	福祉乗車証	身体1・2 療育A 精神1・2	無料		5割	手数料なし(写真な し)		ICカード
		福祉割引サピカ	身体3・4 療育B 精神3	購入時に2,00 0円の手数料		年換算で最 大48,000 円ー2,000	購入時に2,000円 (写真なし)		ICカード
3	仙台市	ふれあい乗車 証	身体1~4 療育・精神手帳 所持者	無料 所得制限有り		5割	手数料なし(写真な し)	5割分を支払い。業者 から毎月請求があり、そ の分を支払っている。	ICカード
4	横浜市	福祉特別乗車 証	身体1~4 療育・精神手帳 所持者	年額1,200円 (20歳未満年 額600円)	横浜市へ	5割ー1,20 0円	手数料なし(写真な し)初回のみ市役 所に申請 納付書 が送られてくるので 郵便局で納付し乗 車証を受け取る。 郵便局には、市より 委託料を支払って いる。	原則過去の実績の5割 相当分を支払うことにな るが、事業所が多数あ るため、個別に検討・交 渉。	
5	鹿児島市	友愛パス	身体1~4(※4は 65歳以上の方) 療育・精神手帳 所持者	無料		5割	手数料なし(写真あ り)	5割相当分	